

森 鷗外（もり・おうがい）

文久二年一月十九日
大正一七年九月
本名林太郎。島根県
生。『舞姫』『雁』
『高瀬舟』等多數。



宮の水戸屋、苔松藤田家に泊。大正三年飯
坂花水館に泊と二度来県。
『月福島の川定』、『高瀬舟』等多數。

円地文子（えんち・ふみこ）

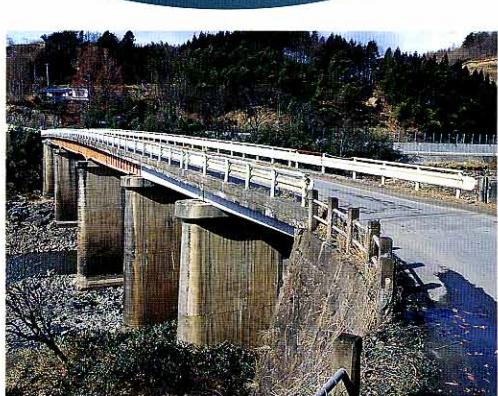
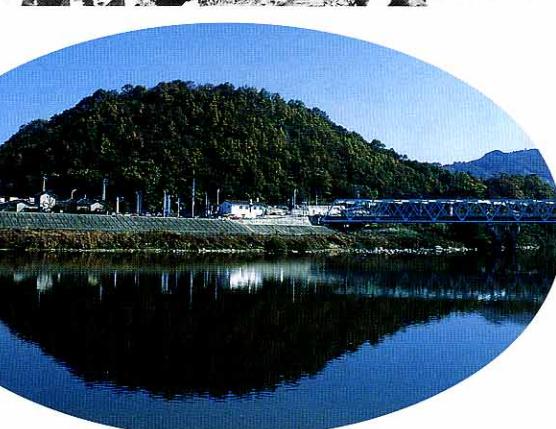
明治三十八年十二月
「昭和六年一月二十日
一四、東京生。小説
家「ひもじい月日」や
現代語訳『源氏物語』
等がある。



朱を奪ふもの』や
『源氏物語』等がある。



○松川事件の現場
© 福島民報社



広津和郎（ひろつ・かずお）
明治二十四年五月
一、東京生。現実に密着しながら、うちに
理想を追及する情熱を秘めた作風が特色。
父の広津柳浪にも福島市を舞台とした小
説『堀川』がある。

戸川幸夫（とがわ・ゆきお）

明治四十五年四月
一、佐賀県生。長年毎
日新聞社の記者を勤め、昭和二九年に高
安人物語で直木賞を受賞。わが国には数
々ない動物文学作家として、動物への深
い愛情と知識に根ざした特異な作品を書い
ている。

15 吾妻の白サル神 戸川幸夫

小説 昭和四二年（一九六七）



戸川幸夫
小説
昭和四二年（一九六七）

密な判決文の検討、批判に基づいて被告たちの潔白を
主張したのがこの評論で、後に全員無罪判決をもたら
す大きな原動力となつた。宇野浩二、松本清張、北条
秀司、その他の文学者たちも松川事件に係わる著作を
発表している。

岩間芳樹（いわま・よしき）
昭和四五年（一〇、三一）、静岡県生。小学生
の時に福島市へ転住、旧制福島中学卒。社
会派の放送作家として活躍、主な作品は
「わたしは海」「マリコ」「ピゴー」を知つ
ていますか等。

吾妻山中に一匹の珍しい白いサ
ルがいた。白サルは百匹を越す群
のボスとなつて、ついには人里ま
で荒しまり、山里の人々は「白
サル神」と呼び恐れうやまうが、
ついに捕まる時がくる。

16 流離の女 岩間芳樹

小説 昭和五一年（一九六七）



斎藤利雄（さいとう・としお）
明治二七年には、「人民文学」（六月号）
に発表した小説「春浅き夜」がモスクワ放
送で放送された。昭和五〇年には福島県立
図書館で「斎藤利雄展」が開催されている。

長い風雪に耐えて甘美な果実をつける梨の木のよう
な女であつた、たかおばちゃんは、会津の生家を借財
のために奪われ、福島市へ移住し仲間町から阿武隈川
を迎えた阿武隈川を愛した土着の農民作家
である。

昭和二七年には、「人民文学」（六月号）
に発表した小説「春浅き夜」がモスクワ放
送で放送された。昭和五〇年には福島県立
図書館で「斎藤利雄展」が開催されている。

18 橋のある風景 斎藤利雄

小説 昭和二五年（一九五〇）



第二次世界大戦下に、軍事物資
を運ぶために架けられた自宅の前の
橋をみつめながら暮らして来た
私が、その橋を中心にして、阿武
隈の自然のなかで営まれる動物や
人間の生活をリアルな眼でとら
れ、ひきしまった文体で語つてある小説である。モデ



○鰐崎波響の「鏡道圖」（県立美術館蔵）

21 流離譚・大世紀末サークス

安岡章太郎 小説
昭和五六年（一九八一）・昭和五九年（一九八四）

『流離譚』は「私の親戚に一軒
だけ東北弁の家がある」の書出し
ではじまる長編で、土佐の安岡家
の人々を中心に、幕末から戊辰戦
争へ、また明治へと日本の移り変
りを述べた壮大な叙事詩というべ
き作品である。一族のひとり正熙
は、明治二〇年代はじめ、梁川町にきて、その頃珍し
い医院を開業して、町民の尊敬を受けるまでになる。

昭和五一年から五六六年まで『新潮』に掲載された。

『大世紀末サークス』は飯野町生まれの広八が、一
七人の曲芸師をひきつれて、慶應二年から明治二年ま
で、アメリカ、ヨーロッパを巡業した記録を、広八の
日記をもとに記したものである。昭和五八年から五九
年まで『朝日ジャーナル』に連載。

なお飯野町史談会では、広八の日記を復刻、昭和五
年に出版している。

北海道松前藩家老の波響（名は
廣年、明和元年～文政九）は有能な
政治家、画家、文人であつた。こ
の波響の数奇な一生を描いたもの
である。松前藩は文化四年（一八
〇七）から一四年間は梁川町に移
封され、波響も梁川に在住、藩の復帰の運動をする一方、
画業に励み、また地方の文人・画人を指導した功績は
大きい。昭和六一年～平成元年まで『新潮』に連載。

22 蝣崎波響の生涯 中村真一郎

小説 平成元年（一九八九）



昭和二七年には、「人民文学」（六月号）
に発表した小説「春浅き夜」がモスクワ放
送で放送された。昭和五〇年には福島県立
図書館で「斎藤利雄展」が開催されている。

昭和二七年には、「人民文学」（六月号）
に発表した小説「春浅き夜」がモスクワ放
送で放送された。昭和五〇年には福島県立
図書館で「斎藤利雄展」が開催されている。